

取組個票①5年間の取組全体概要

①取組名	取組01	LRTネットワークの形成
②対応する目標・課題	低炭素・省エネルギー	
③対応する評価指標・目標値	■評価指標:公共交通利用者数	■目標値:62,432人/日(H21年度)⇒64,000人/日(H28年度)
	■評価指標:便利な公共交通の徒歩圏に住む居住人口の割合	■目標値:28%(H17年度)⇒42%(H37年度)
	■評価指標:運輸部門からのCO2排出量	■目標値:1,037千t-CO2(H17年度)⇒190千t-CO2(H62年度)
④取組内容 (1)路面電車の南北接続 平成26年度の北陸新幹線開業、さらに平成28年度以降に完成予定の在来線の連続立体交差事業や駅前広場整備事業等に併せて、鉄道高架下での富山ライトレールと市内電車の接続を行ない北部地区と都心地区のアクセス強化や利便性の高いLRTネットワークを構築し、都心地区の都市機能や居住環境の向上を図る。 (2)富山地方鉄道上滝線LRT化(構想) 南富山駅等における市内電車の上滝線(鉄道)への乗り入れ等による、LRTネットワークの実現に向けた検討を行う。 (3)富山ライトレールの複線化 富山ライトレールの軌道区間の一部を複線化することにより、運行の定時性を確保し、富山市の北部地区とのアクセス強化や利便性の高いLRTネットワークの構築を行う。また、永楽町付近に新停留場を設置し利便性の更なる向上を図る。 (4)市内電車環状線での停留場新設 市内電車の利便性の向上及び中心市街地の活性化を図るため、市内電車の環状線の中でも停留場間隔が広いグランドプラザ前～荒町間(中町(西町北)停留場を新たに設置する。整備する停留場はバリアフリー対応とし、歩行者の横断する箇所についてはレールと道路面との高低差を小さくし、軌道の隙間については車いすのキャスターがはまらないように狭くし、歩行者(特に身体障害者、高齢者)の横断に配慮した軌道を整備する。		
⑤エリア (1)富山ライトレールと市内電車の接続 富山駅周辺での駅南地区と駅北地区を接続する区間 (2)富山地方鉄道上滝線LRT化(構想) 富山地方鉄道市内軌道線、上滝線の南富山駅から上滝線岩崎寺駅まで、不二越線の区間 (3)富山ライトレールの複線化 富山市永楽町～富山市奥田新町の区間(永楽町八田割11地先～奥田中学校前駅まで) (4)市内電車環状線での停留場新設 富山市西町～富山市荒町の区間		
⑥主体 交通事業者(富山地方鉄道、富山ライトレール)、富山市		
⑦活用した国等の制度 (1)社会資本整備総合交付金(国土交通省)<H24～H25年度> (2)社会資本整備総合交付金(国土交通省)<H26:列車増発> (4)社会資本整備総合交付金(国土交通省)<H24>		
⑧地域の関与 【実績】:交通事業者の取組に対する富山市の支援等 ・交通事業者の取組に対する富山県の支援等		
⑨スケジュール		
23年度	(1)関連:路面電車南北接続(第1期:富山駅南側)の基本計画 (2)関連:上堀駅・朝菜町駅測量調査、列車増発活性化社会実験 (4)関連:中町停留場の実施設計	
24年度	(1)関連:路面電車南北接続(第1期:富山駅南側)の基本設計 (2)関連:南富山駅・上滝線測量調査、列車増発 (4)関連:中町停留場の整備	
25年度	(1)関連:路面電車南北接続(第1期:富山駅南側)の実施設計 (2)関連:開発駅・月岡駅測量調査・検討、列車増発	
26年度	(1)関連:路面電車南北接続(第1期:富山駅南側)の軌道工事、路面電車南北接続(第2期:富山駅北側)の基本設計 (2)関連:布市駅測量調査・検討、列車増発 (3)関連:富山ライトレール軌道複線化の基本設計	
27年度	(1)関連:路面電車南北接続(第2期:富山駅北側)の実施設計 (2)関連:沿線各駅の駅周辺施設整備基本計画の基礎調査及び計画作成調査・検討、列車増発 (3)関連:富山ライトレール軌道複線化の実施設計	
28年度	(1)関連:路面電車南北接続(第2期:富山駅北側)の工事施行認可取得 (2)関連:駅施設等改良工事、列車増発 (3)関連:富山ライトレール軌道複線化の整備	
29年度以降	(1)関連:路面電車南北接続(第2期:富山駅北側)の軌道工事 (2)関連:駅施設等改良工事、列車増発 (3)関連:富山ライトレール軌道複線化の整備	
⑩他の取組との連携 取組名:異なる交通モード間の連携強化 連携内容:富山地方鉄道上滝線LRT化までに上滝線の活性化を図っておく必要があり、その一環として、上滝線沿線においてパークアンドライド駐車場を整備する。 取組名:公共交通軸としてのバス交通のサービス水準充実 連携内容:本市の公共交通体系は、LRTネットワークをはじめとする鉄軌道と、高頻度運行のバス路線によって構成することを目指していることから、公共交通軸としてのバス交通のサービス水準の充実を図る。		
⑪自立・自律の方針・目標 ●富山地方鉄道上滝線LRT化(構想)による経済効果 富山地方鉄道上滝線LRT化は、現段階では構想であるが、列車増発の活性化事業に取組んでおり、利用者の増加によって中心市街地を訪れる人数が増加し、消費行動に結びつくことやその消費による新たな雇用の創出を目指す。 ●公共交通沿線での地価の維持・向上による税収の確保 公共交通活性化への投資により、沿線地域の地価(資産価値)を維持・向上させ、税収(固定資産税・都市計画税)を確保するとともに、その財源により、更なるまちづくりへの投資を行うといった好循環を目指す(中心市街地や富山ライトレール沿線では、これまでの活性化策の展開により地価の下落傾向に歯止めがかかっている)。		